

# 上佐鳥中原前Ⅲ遺跡

特別養護老人ホーム増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

上佐鳥中原前Ⅲ遺跡  
上佐鳥中原前Ⅲ遺跡  
上佐鳥中原前Ⅲ遺跡

2013.5

前橋市教育委員会  
社会福祉法人上川会  
山下工業株式会社

# 上佐鳥中原前Ⅲ遺跡

特別養護老人ホーム増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013.5

前橋市教育委員会  
社会福祉法人上川会  
山下工業株式会社

## 例　　言

1. 本書は、特別養護老人ホーム増築工事に伴う上佐島中原前Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、社会福祉法人上川会の委託を受け、前橋市教育委員会文化財保護課（福田貴之）の指導のもと山下工業（代表取締役 山下 尚）が実施した。
3. 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、社会福祉法人上川会の費用負担によって行われた。
4. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡所在地　群馬県前橋市上佐島町 771-2、772

遺跡コード　24G17

調査面積　302.1m<sup>2</sup>

調査期間　平成 25 年 3 月 4 日～平成 25 年 3 月 25 日

整理期間　平成 25 年 3 月 26 日～平成 25 年 5 月 15 日

調査担当者　櫻井和哉（山下工業株式会社）

5. 発掘調査資料及び出土遺物は、一括して前橋市教育委員会に保管してある。

6. 本書の編集執筆は I を福田貴之（前橋市教育委員会）が行い、その他を櫻井和哉が担当した。

7. 発掘作業に関わった方々は以下のとおりである。（五十音順・敬称略）

【発掘作業】 稲田康夫 岩淵立弥 内田晴男 岡田和夫 神山正男 小和瀬深夏 関口弘子 田村美知子  
曲澤年雄 森田恵子

【整理作業】 永島香織 堀地文子

8. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、下記の方々からのご助言・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）  
青木利文 鈴木徳雄 田中隆明 永井智教 曲澤年雄 山際哲章

## 凡　　例

1. 表紙に 2006 年国土地理院撮影の航空写真を編集・加工し使用した。
2. 採図に建設省国土地理院発行の 1：25,000 地形図、昭和 43 年前橋市都市計画図、平成 21 年前橋市都市計画図を編集・加工し使用した。
3. 遺跡、全体図における X・Y 値は、平面直角座標 IX 系（日本測地系）に基づく座標値である。
4. 採図中に使用した北は座標北である。
5. 遺構名稱は先行して調査された上佐島中原前Ⅱ遺跡のものに準ずる。なお遺構略称は以下のとおりである。

【溝跡】・・W 【ピット】・・P

6. 遺構図・遺物図の縮尺は原則として以下の通りである。

【遺構平面図】1：120 【土層断面図】1：60 【遺物図】1：3

7. 遺構・遺物の計測値は、（ ）は推定値、[ ] 残存値で示す。

8. 土層及び遺物の色調の表記は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修）に基づく。

9. 本書で用いる示標テラフの略称と年代は以下のとおりである

【浅間 A 軽石】 As-A 天明 3 年（1783）

【浅間 B テフラ】 As-B 天仁元年（1108）

【榛名二ツ岳-渋川テフラ】 Hr-FA 6 世紀初頭

【浅間 C 軽石】 As-C 3 世紀末～4 世紀初頭

# 目 次

## 例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の地理的・歴史的環境	1
III 調査の方法と経過	6
IV 基本層序	7
V 遺跡の概要	8
VI 調査の成果と課題	9

## 引用・参考文献

## 写真図版

## 報告書抄録・奥付

## 挿図目次

Fig.1 遺跡周辺の条里と用水系統	2
Fig.2 前橋市周辺の地形	2
Fig.3 周辺の遺跡	4
Fig.4 調査区位置図（1）	6
Fig.5 調査区位置図（2）	7
Fig.6 上佐鳥中原前Ⅲ遺跡基本層序	8
Fig.7 上佐鳥中原前Ⅲ遺跡全体図	11
Fig.8 1号畦畔・W-1～2	12
Fig.9 2号畦畔・W-1	13
Fig.10 4号畦畔・P-1～6・出土遺物	14

## 表目次

Tab.1 周辺の遺跡	5
Tab.2 遺構計測表	9
Tab.3 水田面標高値計測表	10
Tab.4 遺物観察表	10

## 図版目次

PL.1 調査区全景（北東から）	PL.3 2号畦畔（東側へ分歧）
調査区全景（北西から）	2号畦畔セクション AA'（南から）
PL.2 基本層序B	2号畦畔セクション BB'（南から）
基本層序D	4号畦畔検出状態（南東から）
1号畦畔全景（北から）	4号畦畔セクション AA'（西から）
1号畦畔セクション AA'（南から）	W-1号溝セクション（西から）
2号畦畔全景（北から）	作業風景（南東から）
2号畦畔水口状造構（東から）	出土遺物
2号畦畔置石検出状態（東から）	

## I 調査に至る経緯

平成24年11月8日付けで社会福祉法人上川会より特別養護老人ホーム増築工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年11月29日に試掘調査を実施し、浅間B軽石で覆われた水田跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、設計変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成25年2月22日付けで社会福祉法人上川会、民間調査組織である山下工業株式会社で、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年3月4日から現地調査が開始された。

## II 遺跡の地理的・歴史的環境

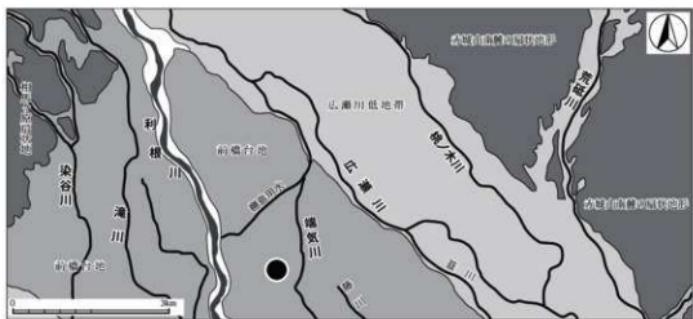
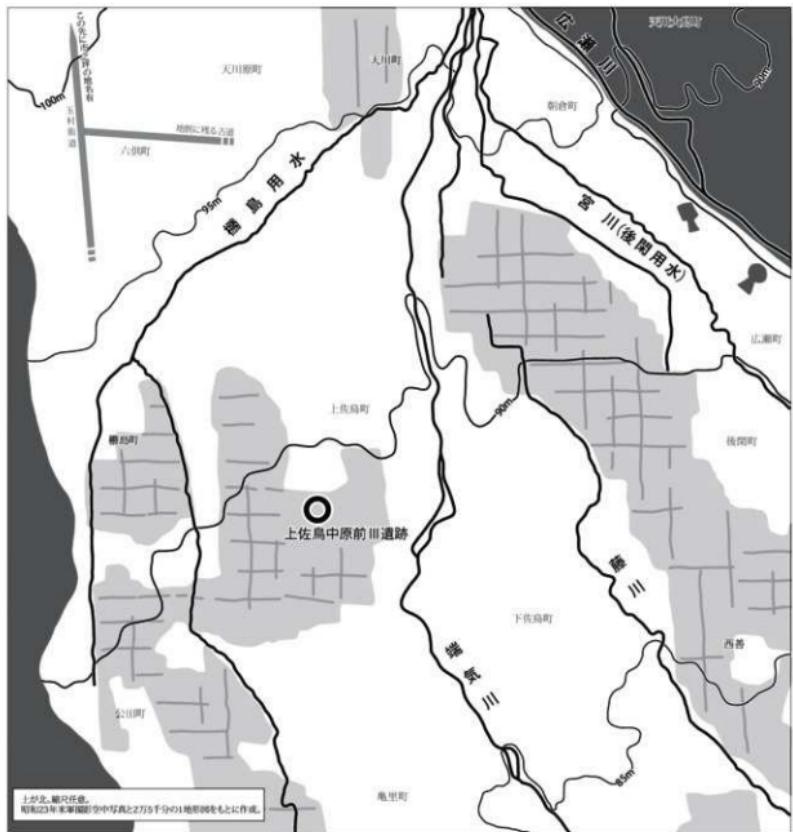
### 1 地理的環境

上佐島中原前III遺跡は、標高約89m、JR前橋駅から南南東に約3kmの地点に位置し、地形的には利根川左岸の前橋台地上に立地している。この前橋台地は、約二万年前に遡る浅間山起源の岩屑なだれ堆積物である前橋泥流が基盤に形成されている。この前橋泥流は利根川によって形成された前橋砂礫層を覆い尽くし、一帯に広大な扁状地状の平坦地を形成したと考えられる。その後、前橋台地面は中小河川による浸食と堆積が始まり、自然堤防や後背湿地が発達したようである。航空写真や地形図からは、前橋台地上に広がる水田地帯中の微高地に集落が島状に点在する様子が見て取れ、周辺地形の形成過程が想起される。また、前橋台地の北側、赤城山麓との間に北西から南東方向の細長い低地帯が広がっており、これを広瀬川低地帯と呼ぶ。現在利根川は前橋台地上を貫流しているが、これは15～16世紀頃の変流によるものとされている。本来利根川はこの広瀬川低地帯に流路をとっていたとされ、そもそもこの低地帯も前橋泥流堆積後の台地面を利根川が浸食することで形成されたものである。

上佐島中原前III遺跡の近隣は現在も田園風景が広がる景観を呈している。もともと付近一帯が伝統的に水田稲作を主要な生産基盤として発展してきたことは想像に難くない。陸軍迅速図や戦後の米軍撮影空中写真においても上佐島町周辺の前橋台地はほとんど水田化されている状況が窺える。つまり、前橋泥流の発生に始まる前橋台地の形成は、結果として周辺の地形を平坦化し<sup>(註1)</sup>、広大な水田可耕地をもたらしたと捉えることができるのであり、本遺跡周辺地域が県下有数の穀倉地帯として成立する前提の一つとなったと考えられるのである。また、広瀬川低地帯に流れる、現在は広瀬川と桃ノ木川であるが、旧利根川水系の水を、台地と低地の比高差という地形的な制約を克服し灌漑用水として前橋台地面への引水を達成させたことが、その後に始まる台地上における大規模な水田開発を支えるもう一つの前提となったと考えられるのである。

### 2 歴史的環境

**古墳時代** 前橋台地面での水田開発は古墳時代に至って本格的に開始されるのであろう。近年の発掘調査に伴って増加したAs-C・Hr-FA・Hr-FPといったテフラやこれに伴う泥流堆積物などを鍵層として検出される水田遺構の事例は、本遺跡周辺地域の前橋台地上において古墳時代を通じて連綿と水田耕作が営まれたことを示すものである。また、この時期は概して自然地形に柔軟に適応させる形で施工された小区画水田が営まれており、開発の当初は前橋台地の表層を流れる風呂川・端気川・藤川のような自然河川を灌漑に用いることから始まったと思われる<sup>(註2)</sup>。それに加えて低地帯の開発にあたっては人工的に用排水路の整備も成されたと思われるが、前期で既にそれが大規模に行われていた形跡もある。例えば徳丸仲田遺跡G区6号溝やその南東に所在する玉村町砂町遺跡7号溝は開闢の年代が古墳時代前期に遡る大溝で、両者は同一のものである可能性が指摘されてい



る（中里 2007）。この見解に依拠するならば、この大溝は両遺跡間の距離約2kmを超える長大な構造物として見なすことができ、その開発の規模や性格を推し量ることができる。また、前橋市本町3丁目から文京町・天川町にかけて存在する女溝は、並走する2条の大溝が最近まで地割として残ったもので、その内の一つである1号女溝の開鑿年代が古墳時代後期に遡る可能性が指摘されている（前原ほか 2001）。とするのであれば、古墳時代後期の段階で既に低地帯を流れる旧利根川水系の水を台地上に揚水し、灌漑用水として使用していたことを示唆するものである。ともあれ、こうした大溝状遺構は、古墳時代において台地面を流れる自然河川の灌漑面積の拡大や用水量を補完するものとして存在し、該期の前橋台地上の水田開発を漸進させる性格があったと思われる。

古墳時代における前橋台地上の水田開発が広域に着手されたことは集落遺跡の分布からも裏付けられるであろう。市域内利根川左岸の前橋台地上を中心に古墳時代前期に限って概観しても、横手早稲田遺跡・徳丸仲田遺跡・房丸桜町遺跡・山王若宮遺跡・公田池尻遺跡・公田東遺跡・櫛島川端遺跡・後園団地遺跡・六供東京安寺遺跡・六供中京安寺遺跡・六供遺跡群No.5・南町市之坪遺跡・石倉下宅地遺跡などで堅穴住居跡が確認され、広範囲に多数分布する様子が窺える。また、そのほとんどは前橋台地上の低地帯の開発を前提として設営されたものと見なしして差し支えないであろう。弥生時代後期のものは櫛島川端遺跡や徳丸仲田遺跡などで堅穴住居跡や遺物が少数確認される程度であるに対し、古墳時代前期に至って急激な遺跡の増加を見ることは少々異質な現象であり、地域における開発史・景観史上的の画期と見なすことができると思われる。古墳時代中期（註3）・後期では、徳丸仲田遺跡・川曲遺跡・下佐鳥遺跡・公田池尻遺跡・公田東遺跡・櫛島川端遺跡・櫛島川端II遺跡・朝倉工業団地遺跡群・六供遺跡群・六供遺跡群No.5～7・生川遺跡・南町市之坪遺跡などが挙げられ、依然として多くの集落遺跡を確認することができる。また、前期の遺跡と近い場所に分布するものも多く、概ね集落占地の傾向を大きく変えることなく推移するように見受けられる（註4）。

**古代以降** 遺跡の所在する上佐鳥町は、律令期に元総社地区では国府や国分寺が造営されたが、この古代上野国の政治的中心に近い。また、和名類聚抄にみる群馬郡駅家郷は厩橋城の名に恵みを見せ、那波郡朝倉郷は端氣川左岸、現在の朝倉町付近に推定されることから、群馬郡と那波郡の境界に近い区域であったと思われる。律令期は、広く平坦な地形が広がる前橋台地上の水田地帯で、条里制の施行が開始された時期でもある。前橋長瀬線改築工事、北関東自動車道建設、南部拠点地区土地区画整理事業等に伴う発掘調査では、As-B直下の条里水田の検出事例が豊富であり、文京町No.1遺跡では、As-B下に条里坪線に沿う可能性のある畦畔（前田 2006）が検出されている（註5）。この事から12世紀初頭の前橋台地上では、現利根川以北、端氣川水系に限ってみても、水源から流末に及ぶ範囲に条里形地割の広がる景観が形成されていたことが推察される。群馬県における条里施工の開始年代については把握していない。しかし、広瀬川低地帯桃ノ木川左岸の中原遺跡群では、弘仁九年（818）の地震に伴う洪水層の下から条里水田が検出され、その下層から8世紀末から9世紀初頭に帰属する住居跡の存在が確認されている。また、西田遺跡ではAs-B下の水田が9世紀後半の住居跡を削平して造成される事例が報告されている。この様な事例から前橋台地上においても条里的施工年代は8世紀代に遡るのであろうし、政治的・歴史的な要因に左右されながらも条里形地割が一定の時間差を持って台地面に拡充されていった過程が想起される。なお、条里施工にかかる開発では、先の西田遺跡の事例のように微高地を削平して水田化するなど自然地形を大きく改変して耕地を造成することもしばしばあったようである（註6）。また、一面にわたって人工的な方格区画を連鎖させる耕地の存在形態は、従来の灌漑体系の更新を迫るものであり、自然河川の流路変更（註7）や新たな溝渠の開鑿を伴って体系的に用排水系統の整備も行われたと考えられる。こうした耕地形態と灌漑体系の変更は一定の計画性に基づく大規模な土木事業によって達成されたとみるべきであり、ここに律令期における開発の特徴を看取することができる。

該期の集落の動向であるが、7世紀後半から8世紀にかけての集落遺跡の事例が少ない点が指摘される。現状

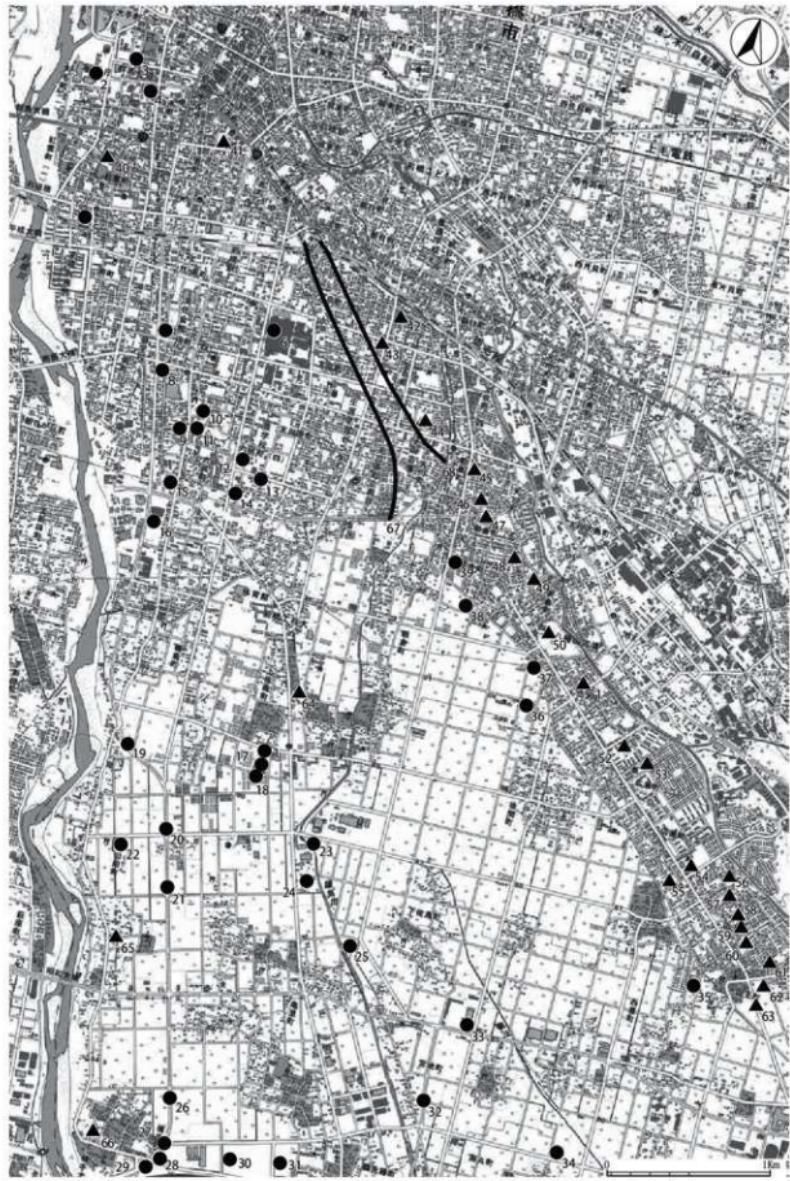


Fig.3 周辺の遺跡

では、公田東遺跡・公田池尻遺跡・朝倉工業団地遺跡群・朝倉伊勢西No.2遺跡などに集落の広がりを認めることが可能である。しかし、管見に触れる限りではこの時期の堅穴住居跡の検出事例をあまり多くは確認できず、明瞭に集落の動態を捉えることは難しい。一方で9世紀以降、とりわけ9世紀後半からは、台地面の微高地に多数の集落の分布が認められ、徳丸仲田遺跡・鶴光路櫻橋Ⅱ遺跡・前田遺跡・前田V遺跡・房丸桜町遺跡・西善鋼治屋遺跡・後閻Ⅱ遺跡・後閻団地遺跡・朝倉伊勢西No.2遺跡・六供東京安寺遺跡・六供中京安寺・六供下堂木Ⅲ遺跡・石倉下宅地遺跡・紅雲町村東遺跡・前橋城などがその事例として挙げられる。この事は先に触れた7世紀から8世紀にかけての集落の調査事例が少ない状況と比べると対照的である。律令期における前橋台地上端気川水系での集落変遷は、何かしらの政治的・歴史的背景に起因するのかもしれないが、それが調査地点の偏りや調査面積の広狭による場合も想定されるところであり、今後の検討の余地を残すものであると思われる。

ともあれ、古代において前橋台地上に形成された条里形地割は、例えばその後の浅間山の爆裂や利根川の氾濫にみる自然災害、または人間活動そのものの営為によってそこかしこに変化を刻まれてきた。一方で跡遺周辺の区域では昭和の時代に至るまで広く条里形地割が残存し、歴史的景観の一部を構成してきたことは、地域史の中でも意義あるものと思われる。また、その成立が古代に遡りうることが指摘される猿川や宮川（後閑用水）の様な用排水系統が大枠のところで踏襲されてきたであろうことの意味も大きいであろう（註8）。

今回報告に及ぶ上佐島中原前Ⅲ遺跡において検出された水田跡は、As-Bの降下を契機に地中に埋没した条里遺構の一端を成す可能性があり、水田稻作を基盤として発展してきた地域社会の歴史的過程の一端を伝えるものとして位置づけることができる。

- (註) 前橋台地形成紀が質質で織密である点にも注意したい(梅澤・能登 1981)。

(註) 公田東遺跡のⅡ・Ⅲ号河岸には單軸の構築的痕跡が抽出され、徳丸仲山遺跡[4]の藤川田流域には水辺祭祀が想定される遺物の出土をみることから、当時の人間活動と自然河川の関わりを窺うことができる。

(註) 和泉式に比定されるのが少なく確実に別できていない。中期と捉えたもののはどんは鬼高式の初期的な様相を呈するものである。

(註) 一方で横手早稲田遺跡の後に後期には集落域が水田化し、山王若宮遺跡のように前期の集落が後期には盆地に転換するなど、明らかに土地の利用形態を変える場合もある。こうした集落移動の契機や要因を探していく必要もあると思われる。

(註) 端城川左岸八代川以北には条里型地形の残像を認めたが、しかし、二子古墳の壇を東西に通過する道路下、八代八幡神社西脇を南北に走る市道(玉村街道)は条里型地形の崩壊と見なすことができる。また、兩面には市川坪の地名があることから、既述の盆地における埋没条里遺構の存在が示唆される。ちなみに古代におけるこの区域の船水は風呂川水系でもより、反瀉のような人為的な幹線排水路の存在も想定すべきであろう。

(註) 公田東遺跡の事例にみると古墳時代の集落域が、律令制の開発で水田化される事例も散見されるところである。

(註) 例えば筑紫川の川底遺跡などが川原に露出する斜面は柳樹等低木によって捕獲されている(梅澤 1987)。

(註) 宮川が比較的良好に条里型地形を残す朝倉町、西阿賀町同じく、淮淵面積をもつとともに元喰である。鶴島用水も端城川右岸で条里型地形を削る上佐島町・鶴島町・公田町で広く廻遊するものが、分水点の位置や走行ルートを踏まえると開闢の年付は下かるかもしれない。

Tab.1 周辺の遺跡

#	地名	地名	#	地名	地名	#	地名	#	地名
1	丘陵的前山越跡	古代：水田	21	2200米的跡地	古道：集落・水田 古代：水田	41	前山越古道	61	上原 16号墳
2	前山越2	古代：集落	22	1200米的跡地 (調查合)	古代：水田	42	平山古道	62	阿佐古山古道
3	前山越3 (小川東側)	古代：集落	23	7千年的跡地	古道：集落	43	力口山古道	63	阿佐古山古道
4	前山越4 (草場村北山)	古代：集落	24	新潟工業の跡地跡跡	古道：集落・水田 古代：集落・水田	44	前山越・白山古道	64	上原 97号墳
5	红叶村的跡地	古代：集落・赤坂	25	山田山遺跡	古道：集落	45	小豆古道	65	下原 3号墳
6	义理村1号跡	古代：水田	26	龜里平野遺跡	古代：水田 古代：水田	46	瓦山古道	66	茂伊野社古道
7	南山古村跡地	古道：集落	27	稻子干的跡地	古道：水田 古代：水田	47	御前山古道	67	1号古坟
8	生石山迹	古道：集落	28	稻子干的跡地	古代：水田	48	猪之原古道	68	2号古坟
9	八重山遺跡群5	古道：集落	29	稻子干的跡地	古道：集落・水田 古代：水田	49	猪之原古道		
10	八重山遺跡群6	古道：集落 - 沼澤	30	稻子干的跡地	古代：水田	50	前山越・稻山古道		
11	八重山遺跡群7	古道：集落	31	稻子干的跡地 (古跡)	古代：水田	51	前山越・稻山古道		
12	八重山遺跡群8	古代：水田	32	稻子干的跡地	古道：遺物	52	猪之原古道		
13	八重山下山古道	古代：水田	33	稻子干的跡地	古道：遺物	53	猪之原古道		
14	八重山金谷古跡群	古代：水田	34	稻子干的跡地	古道：集落	54	オトカケ原古道		
15	八重山中央古跡群	古代：水田 - 沼澤	35	西面的稻子干的跡地	古代：集落	55	オシヒロ古道		
16	中井古跡	古代：水田	36	稻子干的跡地	古代：集落	56	丸山古道		
17	土居山古村前山越跡	古代：水田	37	猪之原的跡地	古道：集落 古代：集落	57	上原 24号墳		
18	土居山古村前山越跡	古代：水田	38	猪之原の跡地 2	古道：集落	58	大冢古道		
19	鳴鹿山跡地	古道：集落 - 水田 古代：水田	39	新平野の跡地	中古：大溝	59	玉山古道		
20	古山山跡地 (夏葉原)	古道：集落 - 沼澤 - 水田	40	御前山古道	山古：山古道	60	山上の跡地		

### III 調査の方法と経過

委託調査個所は特別養護老人ホーム増築工事に伴う建物建築予定地であり、調査面積は302.1m<sup>2</sup>である。調査区のグリッドは日本測地系に基づく上佐島中原前遺跡從来の4mグリッドに準拠して設定した。グリッド基点(X 0・Y 0)における日本測地系と世界測地系それぞれの座標値を以下に示しておく。

日本測地系 X = 39400.000 Y = -67000.000 世界測地系 X = 39754.904 Y = -67291.379

表土除去には0.25バッカホーを使用した。遺構測量はトータルステーションを用いて行い、土層断面図等は適宜実測により補った。写真撮影はアナログカメラ(35mmモノクロネガ・カラーボジ)とデジタルカメラを併用し、調査区の全景撮影には高所作業車を使用した。今回の調査目的はAs-B直下の水田遺構の検出であるため、重機でIV層まで掘削したのち、人力作業に切り替えた。As-B除去作業では、軽石をジョレンで水平に削ぐようにし、畦畔の頂部を抑えるように心掛け、その有無を確認したのちにジョレン・移植ゴテを併用し水田面の検出に努めた。なお、調査の経過は以下のとおりである。平成25年3月4日から調査開始、3月6日～7日の間に表土掘削を行い、これに合わせて人力によるAs-B除去作業も開始し、3月12日に終了する。3月13日に調査区全景写真の撮影を行う。その後、基本層序の確認のためのトレチング掘削、畦畔の断割りを行い3月15日までに終了した。遺構測量及び調査区埋め戻しを3月25日までに行い調査が完了した。

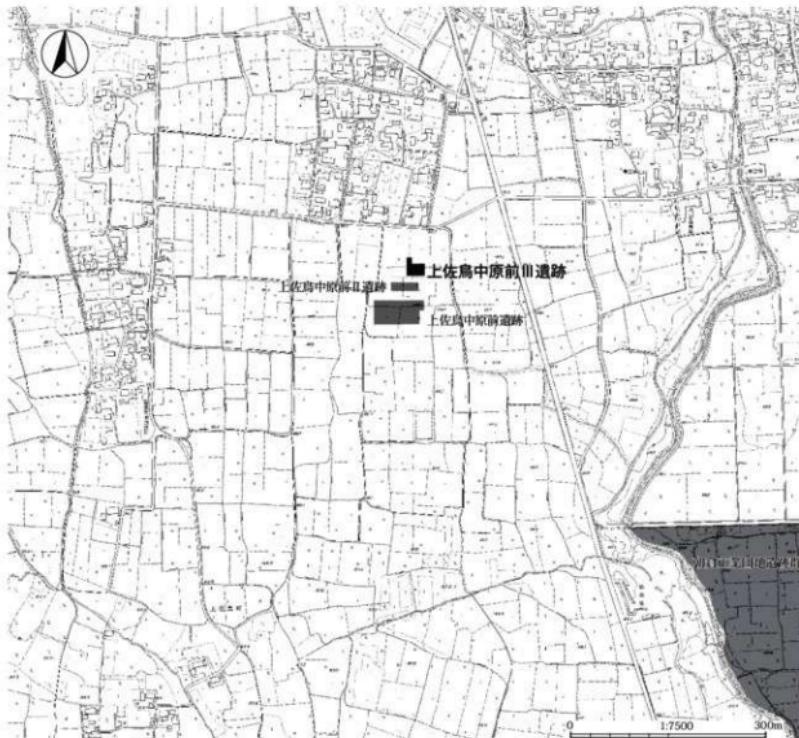


Fig.4 調査区位置図(1)(昭和43年前橋市都市計画図を編集加工)

#### IV 基本層序

本遺跡では4ヶ所での基本層序の観察を基に柱状図を作成した(Fig.6)。II層から上層はAs-Aの混入が認められる近世～現代の耕作土(註1)、III層はAs-Aを含まず、As-Bが緊密に混じる砂質土である。やや泥っぽくよく攪拌された印象も受け、As-B降灰以降の耕作土である可能性が指摘される。IV層はAs-B一次堆積層として認識され、調査区内では概ね5cm～10cmの厚さで確認されたが、3トレンチより西、7トレンチより南では、耕地整理に伴う掘削が深くに及び堆積が薄く、場所によっては削平や攪拌を受けていた。堆積の厚い東側では場所によって上層に灰赤色の火山灰ブロックが僅かに散布する状況も見受けられる。V層からVII層までがAs-B以下の水田耕作に関係した土層と捉えることができる。VII層は斑駁の発達、マンガン粒の凝集がや目立つことから水田の基盤層、その上層のVI層を耕作土として把握できると思われる。なお、V層はVI層の上層に腐植が発達したものであり、またV層とVI層の堆積は漸移的である。VII層から下層、XXI層(註2)より上層の土層の形成はその多くが砂層や細砂含む粘質土層などで構成されるため、概ね水成堆積に起因すると考えられる。一方でIX層、XI層やXIV層の様に有機質土壤が複数枚観察される事から、若干の水流の間断を挟みつつ土層が形成されていった様子も窺われる。土層の形成年代を示すものとして、VII層・VIII層・X層が挙げられる。VII層は7世紀前半の土師器坏小片が出土することからその上限が示唆される。VII層はブロック状でVII層下に疎らに分布するテフラ

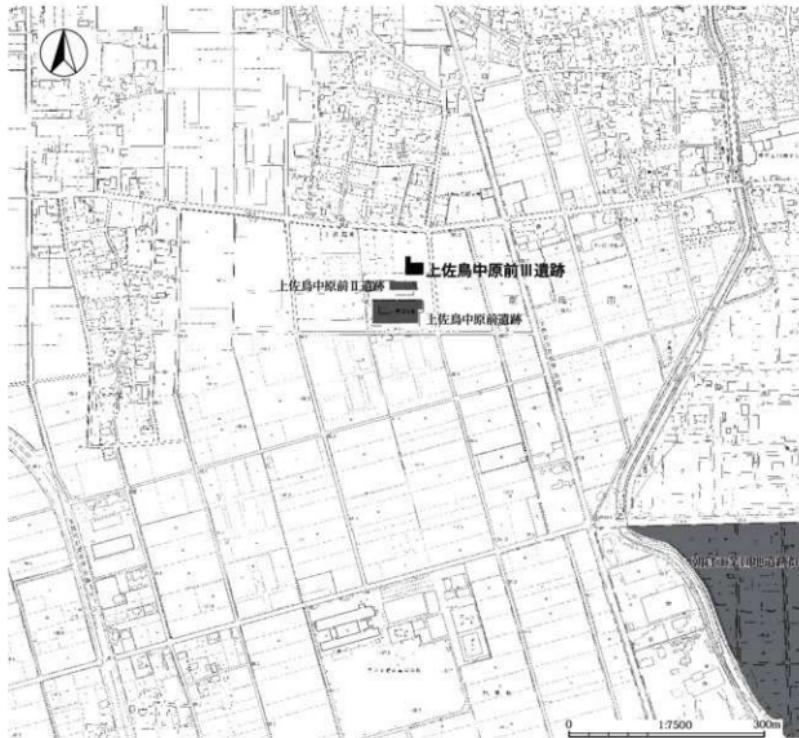


Fig.5 調査区位置図(2)(平成21年前橋市都市計画図を編集加工)

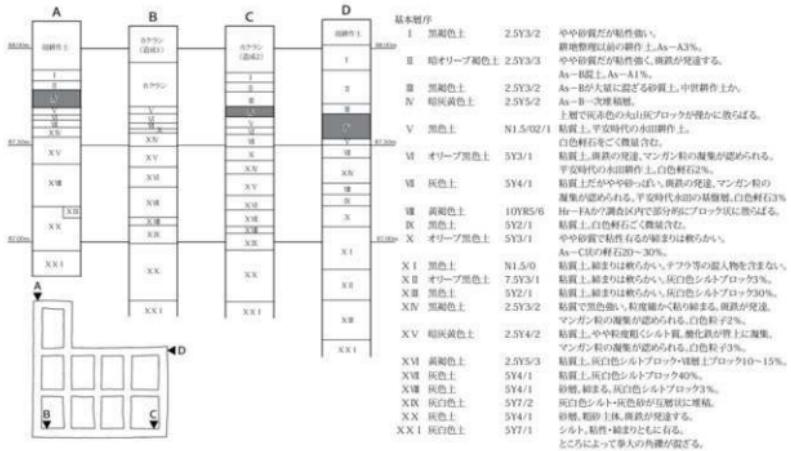


Fig.6 上佐鳥中原前III遺跡基本層序

で、層序やシルト質で黄褐色を呈する特徴から Hr-FA であると想定される。しかし、現地での観察から一次堆積によるものか、泥流起源のものかの識別まではできない。X 層は粒度が粗く粘性の強い土層で白色軽石を多量に含む土層である。この白色軽石は層序から As-C と推定され、上佐島中原前遺跡Ⅱ層に対比されると思われる。

(註1) 1畠はW-Iの新旧がはっきり分からぬ為、耕地整理の影響を受けている可能性もある。

(註2) この脛は灰白色でシルト質の土層であり、一部に豊大的角礫が認められる部分もある。上佐島中東面遺跡XII層に対比できると思われる。

## V 遺跡の概要

上佐鳥中原前Ⅲ遺跡の南側に隣接する区域では平成9年度に上佐鳥中原前遺跡、平成15年度に上佐鳥中原前Ⅱ遺跡と調査されており、As-B直下の水田跡が検出されている。また遺跡が立地する周辺地域、上佐鳥町・櫛島町・公田町一帯は、耕地整理以前には比較的良好な条里形地割を残している区域が認められ、今回の調査地点も条里形地割としての区画性はやや不鮮明ながらその一端を構成している。それゆえ、今回の発掘調査では過年度調査の成果の追認、つまり水田遺構の広がりと水田区画の連続性を確認すること、およびAs-B直下における条里閏連遺構の有無の確認が課題とされた。

**水田跡** As-B 一次堆積層下に 3 条の畦畔を伴って検出された。水田面は全体的には北西から南東へ向かって緩やかに傾斜する傾向を示すが、調査区北東隅付近は部分的にやや窪地を形成している。水田面の状況は浅い凹凸や起伏がやや認められるものの、歩行痕や耕作痕などは検出されなかった。**1号畦畔** (Fig.8) 調査区西側 X16-Y- (マイナス) 15 グリッドから X15-Y- (マイナス) 8 グリッドにかけて検出された。概ね南北軸だが、座標北に対し約 7° 東偏する走向をとり、標高 87.75m の等高線にほぼ並走する。北半分では田面との比高差 2 cm 程度で畦畔の隆起を認識しうるが、南半分は耕地整理による削平の影響を受け、その走向を確認しがたい。**2号畦畔** (Fig.9) 調査区東側 X19-Y- (マイナス) 13 グリッドから X19-Y- (マイナス) 8 グリッドにかけて検出された。概ね南北軸だが、座標北に対し約 2° 東偏する走向をとり、等高線とほぼ並走する。北半分では田面との比高差 4cm 程度で畦畔の隆起も明瞭だが、南側に行くにつれ田面との比高差浅く捉え辛い。また中

央部Y-（マイナス）10 グリッド付近から東側へ分岐する。この東西軸の畦畔は田面との比高差がほとんどなく、捉え辛いものであった。同様に西側にも分岐するようであるが、こちらは調査区壁がせまっており、田面との比高差も僅かなため、明らかに出来なかった。なお南北軸畦畔の北側に水口状に途切れる個所が認められ、また、置石も1点確認された。**4号畦畔** (Fig.10) 調査区東側X18・Y10 グリッド付近にかけて検出された。概ね南東-北西軸で座標北に対し約55°西偏し、等高線に対し斜行する走向をとる。北西端で西方向と北西方向の2方向に分岐すると思われるが、畦畔の隆起が不明瞭で捉え辛い。その走向から元来は2号畦畔から派生したことが想定される。

**その他の遺構 溝跡** (Fig.8～10) 2条検出した。ガラス片やレンガを伴う近・現代のものである。W-1・2ともに一連のものである。W-1は等高線に対し概ね直交し、W-2は概ね平行する走向をとる。W-1の底面は西から東に傾斜し、W-2は北から南に緩やかに傾斜している。W-1・2ともにセクション上で掘り直しを伴っている様子が確認される。ピット (Fig.10) 6基確認されている。人為的なものであるかどうかは不明だが、全てⅢ層土によって埋没している。

## VI 調査の成果と課題

今回の調査では、As-B 直下から3条の畦畔が検出され、本遺跡が平安時代末期の水田跡であることが判明した。これは1・2次調査の成果を追認するものである。今回を含め3回に及ぶ調査の成果では、坪境を示す畦畔や水路といった直接的に条里の施工を裏付ける遺構の検出はなかった。しかし、畦畔の走向が東西・南北軸を指向する傾向は、条里形地割との一定の関連を想起させるものがある。また、上佐鳥町・櫛島町・公田町付近は、端気川右岸でも耕地整理以前は比較的良好に条里形地割の残存が認められた区域であり、本遺跡もこの区域の縁辺部に所在している。昭和43年時点の前橋市都市計画図においても、遺跡周辺ではやや地割に乱れが認められるものの、一町方格の区画を復元することが概ね可能であり、条里形地割が相対的に近い形で踏襲されてきた様子が窺われる<sup>(註1)</sup>。この点も考慮すれば、断定はできないものの本遺跡検出の水田跡は、埋没条里遺構の一端を形成していたと捉えても差し支えないであろう。また、As-Bの降灰は一定期間の耕作放棄を余儀なくされたとも思われるが、この断絶を挟んでも大きく形を変えることなく地割を復旧し再開発されていったであろうことは地域の景観史のなかでも意味あることであると思われる。

なお、今回の調査の中で、検出した水田跡がAs-B降下時に耕作がなされていない、つまり休耕田または耕作放棄地であった可能性を感じる側面もあった<sup>(註2)</sup>。しかし、その根拠については、感覚的な部分もあり、現状では妥当性をもって説明できないため、今回は触れないでおく。今後の課題としている。

(注1) 本遺跡西方、上佐鳥町字西原東辺を南北に通る道路と本遺跡北側に東西方向に通る道路は条里の坪鏡に沿ったものと考えられる。遺跡の西方約400mの地点で交差するが、この交差点から東に約4町分かったところが中沢環濠聚敷の南東角にはほぼ対応している。これを目安にすれば、遺跡周辺の現況の地割の中に比較的一町方格の区画を見て取ることが容易である。

(注2) 全体的に区画性に乏しく一枚の水田が広い点や、同一区画内での田面の比高差がやや著しい点、また、畦畔の残存状況が悪く隆起が不明瞭な点からおぼえた印象である。

Tab.2 遺構計測表

遺構名	グリッド	方位	長さ(m)	幅(cm)	高さ(cm)	備考
1号畦畔	X16・Y-15～X-15・Y-8	N-7°-E	28.25	84～102	0～2	
2号畦畔(南北)	X19・Y-13～X19・Y-8	N-2°-E	18.55	66～88	1～5	水口・置石
2号畦畔(東西)	X19・Y-10～X21・Y-10	N-87°-W	8.4	52～72	0～1	
3号畦畔	-	-	-	-	-	欠番
4号畦畔	X18・Y-10	N-55°-W	[2]	44～66	0～3	2号畦畔から分岐か
遺構名	グリッド	方位	長軸	短軸	深さ	備考
P-1	X-15・Y-14	-	26	20	18	覆土田刷
P-2	X-14・Y-14	-	[30]	28	19	覆土田刷
P-3	X-14・Y-13	-	36	24	16	覆土田刷
P-4	X-17・Y-10	N-80°-E	60	50	14	覆土田刷
P-5	X-17・Y-10	-	38	30	14	覆土田刷
P-6	X-19・Y-8	-	32	24	16	覆土田刷

Tab.3 水田面標高値計測表

水田区画	田面標高値 (m)				田面平均 標高値 (m)	田面最大 標高値 (m)	田面最小 標高値 (m)	比高差 (m)	備考
	北西隅	東北隅	南西隅	南東隅					
1号畦畔西	87.77	87.73	87.75	87.75	87.77	87.80	87.72	8	
1・2号畦畔間	87.75	87.60	87.75	87.68	87.71	87.80	87.62	8	
2号畦畔東(北)	87.59	87.52	87.70	87.64	87.61	87.70	87.50	20	北東へやや傾斜。
2号畦畔東(南)	87.69	87.64	87.67	87.64	87.66	87.69	87.63	6	比較的平坦。

Tab.4 遺物觀察表

出土遺構	遺物 番号	種類	器種	口径	底径	高さ (cm)	胎土	色調	形態・技法上の特徴	残存率	備考
As-B 下水田跡	1	上器部	台付甕	—	—	[3.1]	鐵粒・白粒・砂粒・ チャート	相	外面ヘラケズリ、内面ナデ・ ヘラナデ。	胸～脚部破片	表面やや磨滅。

## 引用・参考文献

- 吉木利文 2013 「朝倉工業須地遺跡群④」前橋市教育委員会
- 新井一仁 2002 「西田遺跡・小山遺跡」群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 有山耕世ほか 2009 「南部拠点地式遺跡群⑩」前橋市教育委員会
- 有山耕世 2010 「南部拠点地式遺跡群⑪」前橋市教育委員会
- 有山耕世 2011 「南部拠点地式遺跡群⑫」前橋市教育委員会
- 飯野弘二ほか 1997 「上島中島遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 飯野弘二ほか 1999 「上島若宮遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 鶴木一ほか 1993 「中大門遺跡」前橋市教育委員会
- 鶴木一ほか 1983 「美里遺跡と利根川の流域」、「日本の古代遺跡 16 群馬東部」 保育社
- 大曾根一郎 2002 「慈光寺田遺跡(2)」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 武野博巳 1994 「印中遺跡群②」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 武野博巳 1995 「印中遺跡群③・V・VI」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 荒原一史 2000 「前城城・草間門・丸町門の遺構の調査」前橋市教育委員会
- 荒原一史 2008 「前市之坪遺跡」前橋市教育委員会
- 金子正人ほか 1991 「前田遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 小林恵意 2011 「前城城(三の丸門根元点)」前橋市教育委員会
- 小林恵意 2012 「朝日伊勢西山2遺跡」前橋市教育委員会
- 小峰 萬ほか 2004 「佐久島中前山II遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 雁山田寿 2010 「八代遺跡群④」前橋市教育委員会
- 齊木一敏 2000 「前田遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 齊藤利司 2001 「鬼里平塚遺跡・横手宮田遺跡・手原早祖田遺跡・横手川南川遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 坂口洋季 1998 「八代遺跡群⑤」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 櫻井和哉 2013 「八代遺跡群⑥」前橋市教育委員会
- 下城山ほか 1999 「櫛島・川端遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 下城山ほか 1997 「櫛島・川端遺跡・公田東遺跡・公田西岸遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 新保一美 1998 「櫛島川端遺跡Ⅱ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 鈴木達雄 1998 「兎玉条山遺跡・兎玉北部地区①」埼玉県深谷市兎玉町教育委員会
- スクラ環境測定株式会社 1984 「牛山遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 閉門功一 2011 「前田低地段の「出火」を含む二・三の層段」『郡馬歴史民俗』第32号 埼玉県研究会
- 閉門功一 2012 「上毛野の古墳墓集団」岩波学術書院
- 高村修弘 2000 「平安時代後期水田跡の位置推定―郡馬周辺内浅間・軽石下水田の検討から―」『生産の考古学』 同成社
- 高橋英之ほか 1998 「公園東遺跡」群馬県古跡調査会
- 高橋亨ほか 2006 「六供遺跡群」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 黒澤伸雄 2012 「前川工業地帯遺跡群③」前橋市教育委員会
- 中川正道 2007 「前田遺跡群第1・2・3遺跡」・猪名町山遺跡・中之坊遺跡・玉村町教育委員会
- 中川正道 2010 「房塚坂遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 長谷川一郎 1995 「西野治屋敷跡」西野治屋敷跡調査会
- 林喜久夫 1983 「後園印地遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 林喜久夫 1983 「後園印地遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 広瀬和水史編さん委員会 1999 「江戸用水」
- 前田和昭 2000 「文化町N1遺跡」前橋市教育委員会
- 前田和昭 2010 「南部拠点地式遺跡群④」前橋市教育委員会
- 前原哲ほか 1988 「前田印地遺跡」前橋市教育委員会
- 前原哲ほか 2001 「利根川から引かれた水道場である「女溝」の意義」『郡馬文化』266号 埼玉県地域文化研究協議会
- 三上正則 1979 「水田土壤」URBAN KUBOTA: No.13 株式会社クボタ
- 峰岡義夫・能登健 1981 「小城遺跡の発見と構造」表町石古墳遺跡調査会
- 矢島博文 2001 「石古墳地跡」表町石古墳遺跡調査会
- 山田昌司 2000 「八代遺跡群⑤」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 吉田利二 1998 「八代下宮本遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 吉田利二 1999 「猿東宮本遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 吉田利二 2000 「鶴光路櫻橋跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 新井弘照 2012 「前川工業地帯遺跡群」前橋市教育委員会
- 群馬史編さん委員会 1999 「群馬史」第1巻 古代・中世 埼玉県
- 群馬史編さん委員会 1991 「群馬史」第2巻 群馬県
- 前橋市史編さん委員会 1971 「前橋市史」第1巻 前橋市
- 前橋市史編さん委員会 1975 「前橋市史」第3巻 前橋市



Fig.7 上佐島中原前遺跡全体図

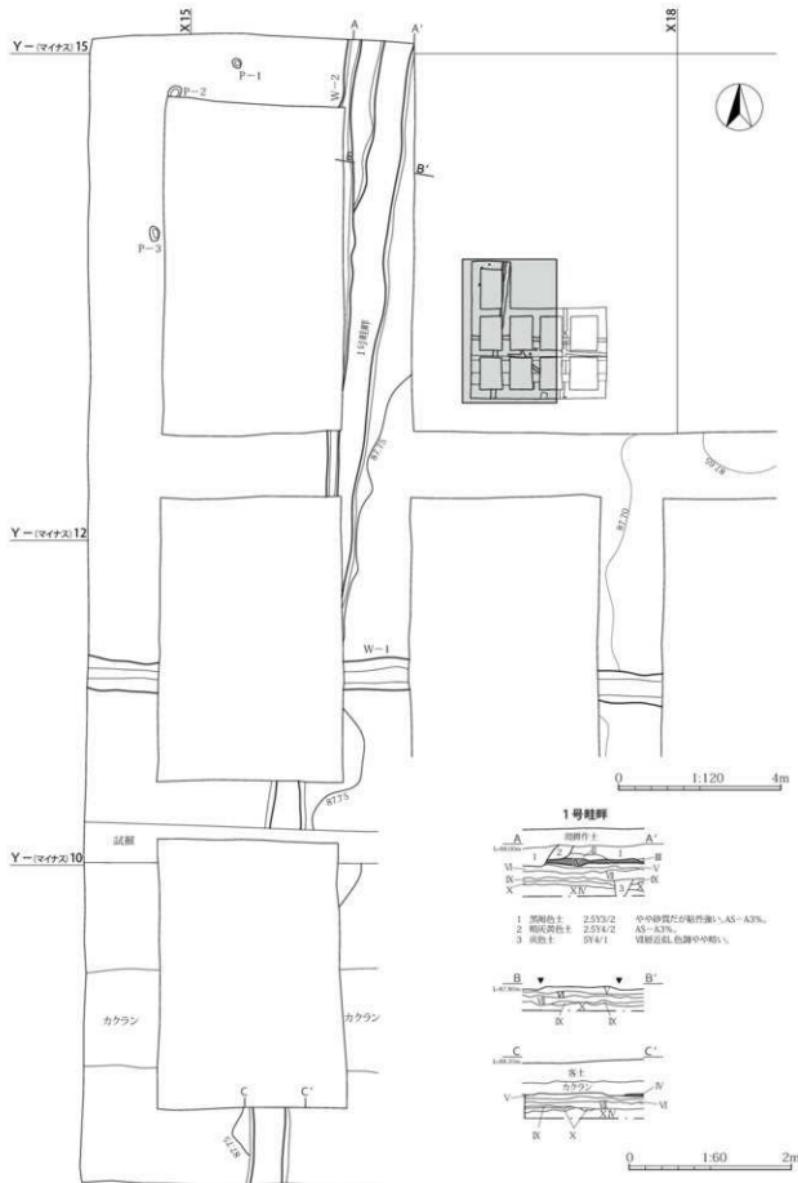
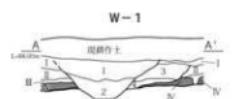
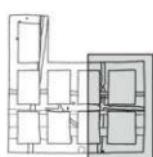
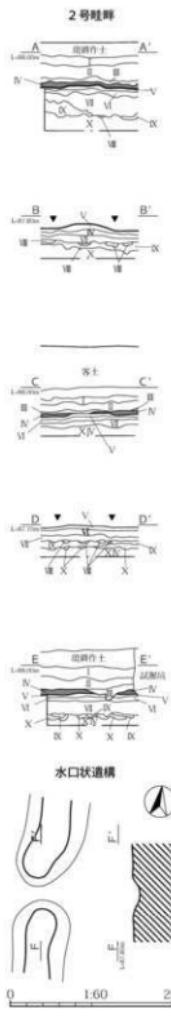
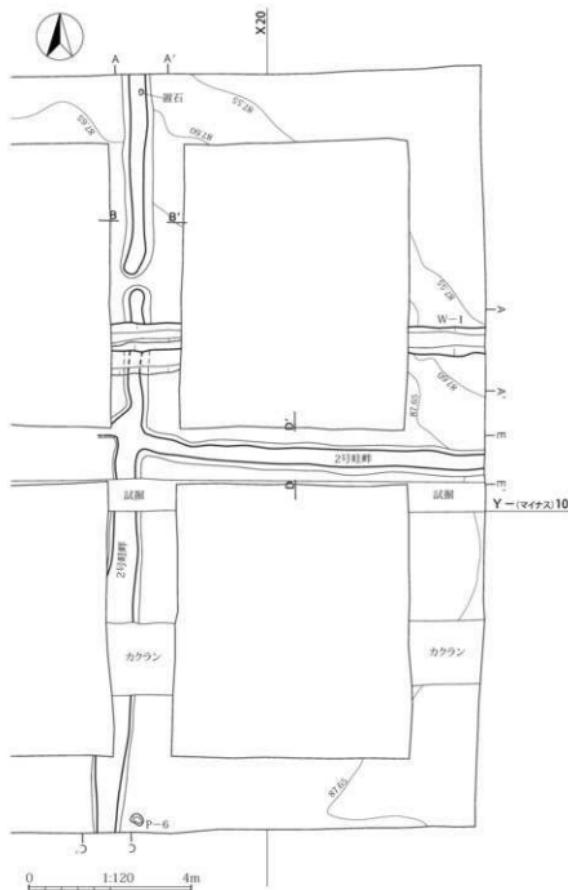


Fig.8 1号駐畔・W-1～2



1 黒褐色土 2.0Y3/2 やや中砂質だが粘性強い、AS-A3%、(W-2層土)  
 2 黒褐色土 2.5Y3/2 やや中砂質だが粘性弱い、1組より色調弱い、AS-A2%、(W-2層土)  
 3 灰灰褐色土 2.5Y4/2 AS-86%+AS-A1%  
 4 灰灰褐色土 2.5Y4/2 3組より色調弱い。

Fig.9 2号柱群・W-1

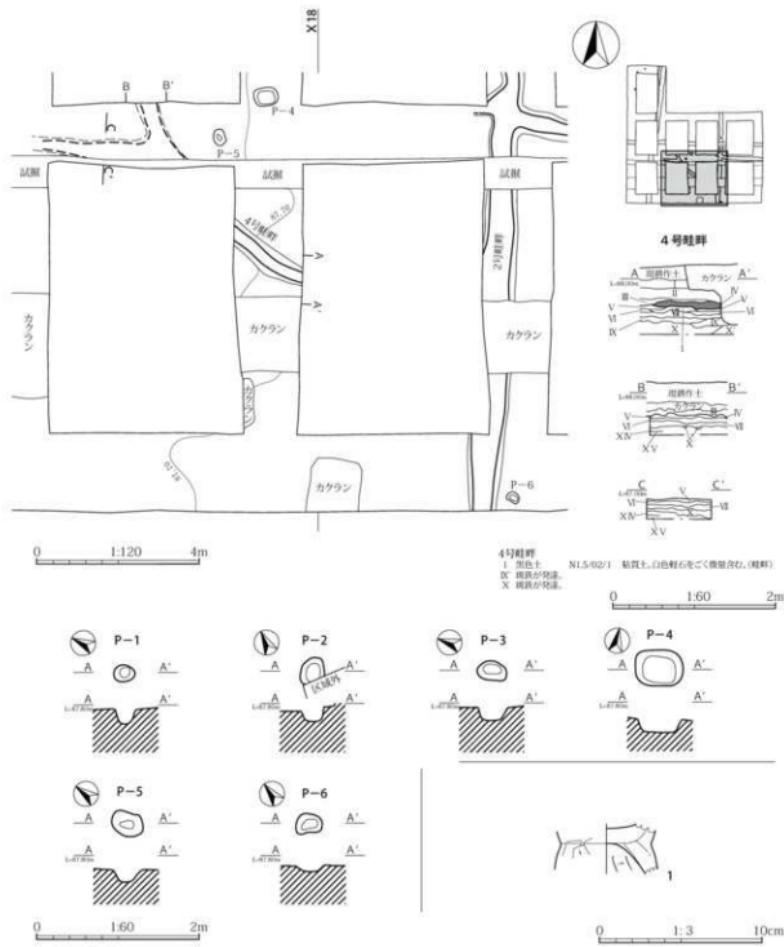
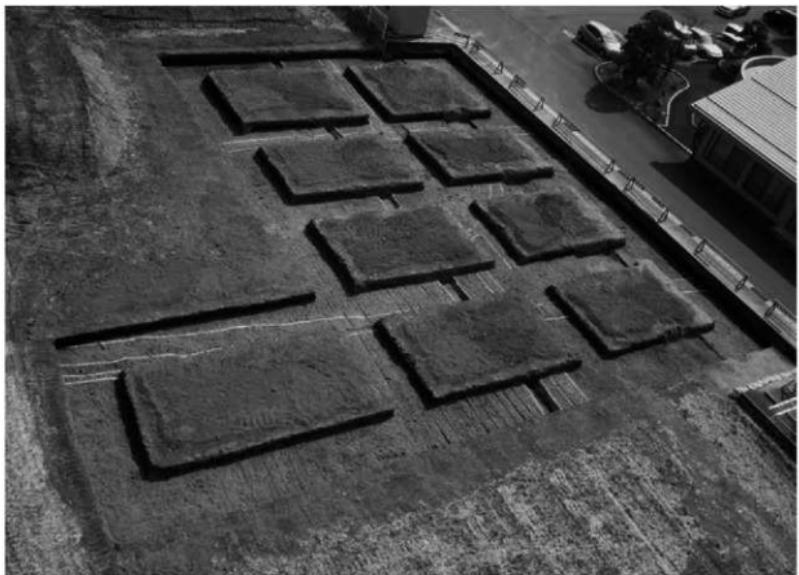


Fig.10 4号畦群・P-1～6・出土遺物

# 写 真 図 版



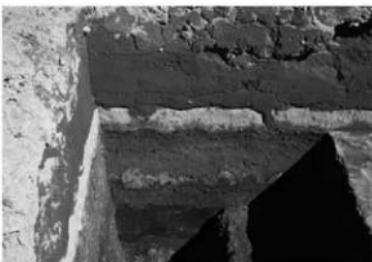
調査区全景（北東から）



調査区全景（北西から）



基本層序 B



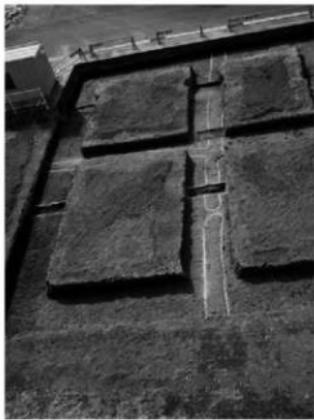
基本層序 D



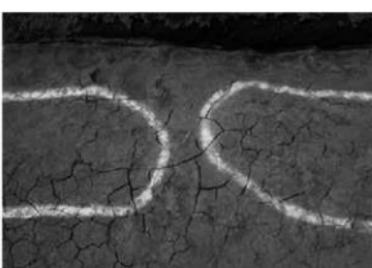
1号畦畔全景（北から）



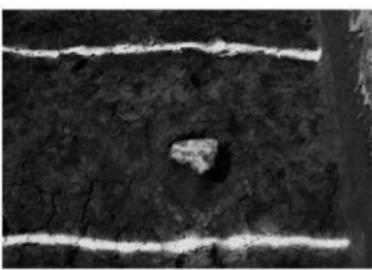
1号畦畔セクション A A' (南から)



2号畦畔全景（北から）



2号畦畔水口状遺構（東から）



2号畦畔置石検出状態（東から）



2号窓群（東側へ分歧）



2号窓群セクション A-A' (南から)



2号窓群セクション B-B' (南から)



4号窓群検出状態 (南東から)



4号窓群セクション A-A' (西から)



W-1号溝セクション (西から)



作業風景 (南東から)



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かみさとりなかはらまえさんいせき								
書名	上佐鳥中原前Ⅲ遺跡								
副書名	特別養護老人ホーム増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名									
編著者名	福田貫之・櫻井和哉								
編集機関	山下工業株式会社								
	前橋市鼻毛石町 207-8								
発行機関	前橋市教育委員会文化財保護課								
	群馬県前橋市三保町 2-10-2								
発行年月日	2013年5月30日								
所収遺跡	所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
上佐鳥中原前Ⅲ遺跡	群馬県前橋市 上佐鳥 771-2,772	10201	24G17	36° 21' 23"	139° 05' 03"	2013.03.04 ~ 2013.03.25	302.1m <sup>2</sup>	特別養護老人ホーム増築工事	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
上佐鳥中原前Ⅲ遺跡	生産跡	古代～中世	水田跡			土師器片		浅間B軽石によって被覆された畦畔及び水口を検出。	
		近代・現代	溝跡2条						

上佐鳥中原前III遺跡  
特別養護老人ホーム増築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

---

2013年5月16日 印刷

2013年5月30日 発行

発 行 前橋市教育委員会

前橋市三俣町 2-10-2

編 集 山下工業株式会社

前橋市鼻毛石町 207-8

印 刷 朝日印刷工業株式会社

---